

1. 項目は、項目番号に、○印をつけたものを適用する。
2. 細目は、○印をつけたものを適用する。
3. その他特記事項は、（ ）内に記載する。

① 適用範囲	本特記仕様書は、各共通仕様書及び補遺事項に記載なき事項を特記するものであり、各工事において、他の工事との関連ある事項は、各々該当の記載事項を参照する。
② 疑義	設計図書に記載なくとも、外観上、構造上、設備上当然然と認められるものは、係員の指示に従うものとする。
③ 優先順位	<p>本工事の設計図書等の優先順位は、下記による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現場説明事項（質疑応答を含む）</li> <li>2. 特記仕様書</li> <li>3. 各設計図</li> <li>4. 共通仕様書（建設大臣官庁官庁常務部監修）</li> </ol>
④ 材料試験	本工事に使用する材料のうち、係員により指定のあるものに関してはその成績書を提出し、又係員の認める試験所で試験を行い、確認を受けなければならない。なお試験に要する諸費は、すべて請負業者の負担とする。
⑤ 提出図書	<p>本工事の施工に伴う、提出図書は、下記に定める他、必要に応じて、係員と協議の上、作成するものとする。</p>

1. 仮囲い

- ・ 構造： ・ 鋼板製 ・ 木製 ・ その他（  
・ 高さ： ・ 1.5M ・ 1.8M ・ 3M以上  
・ その他（  
・ 仕上： ・ 仕上なし ・ ペイント仕上  
・ その他（  
・ 範囲： ・ 道路側、および安全上必要と思われる範囲とする。

2 係員詰所

- ・ 構造 : ・ プレハブ造 ・ 木造 ・ その他 (
- ・ 規模 : ・ 10㎡内外 ・ 20㎡内外 ・ 35㎡内外
- ・ その他 (
- ・ 備品 : ・ 机、椅子、書櫃及び図画櫃、図板、定規、黒板、  
温度計、テストハンマー、ノギス、安全帽、  
米倉用安全帽、長靴、水平垂直器、ロッカー、
- ・ その他 ( 係員の指示のあるもの
- ・ 設備 : ・ 電灯 ・ 給排水、給湯設備 ・ 電話
- ・ 冷蔵庫 ・ 消火器
- ・ クララー ・ その他 (
- ・ 係員詰所は工事打合せに便利ようにならば係事務所と隣接して建てる。  
詰所に係る建設費は、一切請負者の負担とする。

① 根切り	工事着手前に根切方法、山留工法、排水方法、使用機器等を記した、施工設計図を提出し、係員の承認を得るものとする。 根切り完了後、深さ、大きさ、床さらいの状態について、係員の承認を得るものとする。 ・ 特殊工法
② 敷地整理	・ 樹木： ・ 移植 ・ 伐切 ・ その他（
③ 埋戻し、盛土	・ 使用し、 盛土： ・ 無 ・ 有
④ 残土処分	・ 境外搬出 ・ 境内処理 ・ その他（

① 地耐力試験	・ 不要 ・ 必要 1ヶ所 載荷試験 ・ 長期支持力 $F_e = 4.5 \text{ KN/m}^2$
② 既設杭地業	・ 杭の種類： ・ RC杭 ・ PC杭 ・ その他 ・ 長さ等： 詳細については構造設計図特記による。 ・ 試験杭： 詳細については構造設計図特記による。 ・ プレボーリング拡大掘工法： 詳細については構造設計図特記による。
③ 場所打コンクリート地業	・ 杭の種類： ・ アースドリル杭 ・ ベント杭 ・ 深掘工法 ・ その他： _____ ・ 長さ等： 詳細については構造設計図特記による。 ・ 使用鉄筋： 詳細については構造設計図特記による。 ・ コンクリート： 詳細については構造設計図特記による。 ・ 積荷試験： ・ 不要 ・ 必要 1ヶ所

<p>② 割栗及び砂利地業</p>	<p>・ 地業の種類： ・ 割栗 ・ 砂 ・ 砂利 ・ 砂石          ・ その他（<input type="text"/>）          ・ 厚さ： <input type="text"/> 150mm <input checked="" type="radio"/> 100mm</p>
<p>5 ラップコンクリート地業</p>	<p>・ コンクリートの割合： セメント1・砂3・砂利6（容積比）          ・ コンクリートと玉石の比率： ・ 1：1 ・ その他（<input type="text"/>）</p>

⑦ ポリエチレン  
フィルム敷き

・ 不要 ☒ 必要 厚0.15mm/m

8 特殊工法

鉄筋 コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンクリートの種類： <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 普通コンクリート <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早強コンクリート</li> <li>・ その他（</li> </ul> </li> <li>○ 設計基準強度： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 18 N/mm<sup>2</sup></li> <li>・ 24 N/mm<sup>2</sup></li> <li>○ 21 N/mm<sup>2</sup></li> <li>・ その他（</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ 混和剤等： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 減水剤</li> <li>・ 防錆剤</li> <li>・ その他（ A Ⅱ 減水剤</li> </ul> </li> <li>○ 組骨材： <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 川砂利</li> <li>○ 砕石</li> <li>・ その他（</li> </ul> </li> <li>○ 組骨材： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川砂</li> <li>・ 山砂</li> <li>・ その他（</li> </ul> </li> <li>・ コンクリートの供給： <ul style="list-style-type: none"> <li>○ レディミックスコンクリート</li> <li>・ 現場コンクリート <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他（</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ 水セメント比： <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 60° w/t 以下</li> <li>・ 70° w/t</li> <li>・ その他（</li> </ul> </li> <li>・ 塩化規制制： <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 0.3 kg/g/コンクリート以下</li> <li>・ 0.3 kg/g/㎡～0.6 kg/㎡</li> </ul> </li> </ul>
--------------	---

コンクリート (構造用)	設計材料 : 1. 8級高強度鋼材、その他 設計基準強度 : $21 \text{ N/mm}^2$ 、 $21 \text{ N/mm}^2$ : $24 \text{ N/mm}^2$ 、その他 気乾比重 : 1.8以下、その他
3 室中 コンクリート 4 無筋 コンクリート	・ 適用範囲: 年 月 日 ~ 年 月 日 ・ 土間コンクリート: $F_{\sigma} \geq 21 \text{ N/mm}^2$ スラブ15cm以下とする。 ・ 防水層を床さき上げコンクリート: $F_{\sigma} \geq 13.5 \text{ N/mm}^2$

コンクリート  
(非構適用)

- ・ その他 (
- ・ 気乾比重: 1.8    1.2    1.1
- ・ その他 (
- ・ 粗骨材: 火山砂利又は石灰がら    人工軽量骨材
- ・ その他 (
- ・ 細骨材: 川砂    山砂    海砂
- ・ その他 (

- ・ 工法 : ☒ ボルト式    ☐ 巻掛式    その他 ( )
  - ・ 制動剤 :    ☐ 使用不可    ☐ 使用可 ( )
  - ・ 存置期間 :    建設省告示第 110 号による。
  - ・ 打放しコンクリート仕上りのかぶり厚 :    ☐ 20mm    ☐ その他 ( )
- ☒ コンクリート面の仕上がり程度 :    ☐ 目違い不陸等極めて少ない良好な面とする。  
☐ 目違い不陸等の少ない良好な面とする。  
☐ 打放しのままとし目違いばらばらを行う。
- ☒ 木コン等による穴の仕上 :    ☐ 打放し仕上の場合、保水剤入りモルタルを詰める。  
☐ 面うちに仕上げる。  
☐ コンクリート面に合わせ仕上げる。

- コンクリートの圧縮強度試験は、公認の試験所に於て行うことを原則とする。
- コンクリート打込に先立って、設計、施工条件を十分考慮し、適切な施工計画書を作成し、係員の承認を受けるものとする。

① 一般事項	<p>鉄筋の使用範囲は、構造設計図による。</p> <p>鉄筋の継手及び増設配筋等については、共通仕様書その他、構造設計図記載の、基準詳細図等を優先とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄筋の加工、組立に際しては、あらかじめ鉄筋加工図を製作し、品質の承諾を受ける。</li> </ul>
② 材料	<p>普通鉄筋 S 500 S (JIS 500 S)</p>

③ 紐手

- 種類：
  - ・ ガス圧接続手（ ・ 16φ以上 ・ 19φ以上）
  - ・ 重ね紐手 ・ アーク溶接紐手
  - ・ その他（

5	ガス圧接部の試験	・ 種類: ・ 引張試験
---	----------	--------------

① 一般事項

- ・ 使用範囲及び区分は、構造設計図による。
- ・ 鉄骨の端手、仕口及び補強部分その他については、共通仕様書の中に構造設計図記載の、基礎設計図等を優先する。
- ・ 工作図または、厚寸図（鉄板および定規を含む）を作成し、係員の検査を受ける。

② 普通鋼

- 形鋼・鋼板
  - SS400      ・ SM400      ・ SMA400
  - ・ SM490
  - ・ その他（
- ・ 軽量形鋼      ・ SSC400（規格品）
- ・ 鋼管      ・ STK400      ・ STK490
- ・ その他（

○ 高力ボルト      ・ FBT      ・ F10T      ・ F12T      ○ S10T

普通ボルト      SS41とし等価品は中ボルト程度とする。

- リベット      SV41A（規格品）
- 溶接材料      JIS・Z・3211規格に適合するもの。
- 防錆塗料      素地調整の程度
  - ・ 第一種ケレン（プラスト法）
  - ・ 第二種ケレン（機械的作業）
  - ・ 第三種ケレン（手工具作業）

： 錆止塗装は、仕上塗装種別に応じた関係錆止塗料とする。

： 塗装回数は、工場1回、現場1回とし但し塗装不良可能な部分は、工場2回塗るとする。

- ・ 仕上塗装      ・ オイルペイント      ・ グラフアイトペイント
- ・ その他（

○ 溶融亜鉛メッキ処理      ・ 400g/㎡

3 耐爆性  
高強力鋼

・ 鋼材	:	・ SPA H/C	・ SM50A/B/C
		・ SM50B	・ その他
・ 高力ボルト	:	・ F8T	・ F10T
			・ F12T
・ 使用材料	:	・ 裸使用	・ 表面処理 ( ウエザークロートⅠ ・ ウエザークロートⅡ ・ その他 )

⑤ 溶接部の試験

技量確認	
------	--

© 2004 Blackwell Publishing Ltd *Journal of Internal Medicine* 255: 103–110

[illegible]